

高山市(北陸・中部ブロック)

【計画期間 平成27年4月～32年3月】

江戸期～：金森6代107年間に京文化、江戸文化を受け入れて今日の高山の基盤が形成
明治期～：明治9年に高山町が岐阜県の管下となる。
昭和期～：昭和9年に高山本線が開通し、高山、飛驒の発展に大きく寄与した。
昭和11年大名田町を合併して市制を施行。平成17年には、10市町村が合併し、2,176.61km²という日本一広い面積を有する。

【中心市街地を巡る状況】

- JR高山駅を中心に、鉄道や路線バス及び高速バス路線が集結する交通の結節点となっている。
- 観光客の入込数が増加しており、特に外国人観光客数が大きく伸びている。
- 一方で、中心商店街での商店数、従業員数、年間商品販売額は減少しており、観光客の増加が商店街の活性化に繋がっていない。

【中心市街地に関する指標の推移】

- 中心商店街の歩行者・自転車通行量
H20:15,521人 → H26:16,369人
(848人増、105.47%)
- 営業店舗数(中心商店街)
H19:375店 → H25:365店(▲10店、▲2.7%)

目標	指標	現況値	目標値
住みやすいまち	中心商店街 歩行者・自転車通行量	16,369人/日 (H26年度)	17,349人/日 (H31年度)
にぎわいのあるまち	中心商店街の営業店舗数	365店舗 (H25年度)	371店舗 (H31年度)
やさしさにあふれるまち	公共施設利用者数	349,081人/年 (H25年度)	370,354人/年 (H31年度)

【目指す中心市街地像】

人が住み 人が訪れ にぎわいとやさしさにあふれるまち『飛驒高山』

住みやすいまち

- 【主要事業】
- ・旧森邸等整備事業
 - ・交流広場等整備
 - ・車両進入規制実験事業

など

にぎわいのあるまち

- 【主要事業】
- ・飛驒高山屋台村整備事業(仮称)
 - ・総合的な空き店舗活用促進事業
(アンテナショップ事業)
(チャレンジショップ事業)

など

やさしさにあふれるまち

- 【主要事業】
- ・高山駅東西線(自由通路)整備事業
 - ・交流広場等整備事業
 - ・JR高山駅舎建替事業

など

高山市中心市街地活性化基本計画の事業概要

住みやすいまち

- ① **旧森邸等整備事業**
伝統的建造物群保存地区と東山寺院群の動線上に位置する「旧森邸等」を整備し、回遊ルートを形成する観光交流センターとして回遊性の向上を図る。
- ② **交流広場等整備**
様々なイベントの実施が可能な広場の整備を行い交流拠点施設として位置付け市内外との交流とまちなかの回遊性の向上を図る。
- ③ **車両進入規制実験事業**
観光客など歩行者が安心して観光エリアを散策できるよう車両進入規制の検討及び実証実験を実施。

にぎわいのあるまち

- ④ **飛騨高山屋台村整備事業業(仮称)**
中心商店街における通行量が少ない通りに、市民や観光客が利用できる屋台村を整備することで回遊性を向上させ、商店街全体の活力向上を図る。
- ⑤ **総合的な空き店舗活用促進事業**
 - チャレンジショップ事業
まちづくり会社が店舗所有者と賃貸借等について直接交渉し、起業募集から選定まで一体的にすすめ望ましい店舗参入を促進する。
 - アンテナショップ事業
地元産品等の販売を行うアンテナショップを開設し、消費者ニーズの把握や市場調査を行う。

やさしさにあふれるまち

- ⑥ **JR高山駅舎建替事業**
自由通路と併せて、高山駅の橋上化や駅舎修景整備を行うことにより、高山にふさわしい景観とにぎわいのあふれる駅空間を創出するとともに、都市の魅力と交通結節機能を向上。
- ⑦ **高山駅東西線(自由通路)整備事業**
駅東西を結ぶ自由通路を整備し、東西の交流結節機能を強化。

